
あの頃の夏休み

ミスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの頃の夏休み

【Nコード】

N9535T

【作者名】

ミスター

【あらすじ】

小学生の時に友達だった彼や彼女たち。

時代を経て、もう一度集い思い出話に浸ります。

大人になってしまったあなたへ…。

あの頃みんな、再び集合（前書き）

けっこう「ぼくのなつやすみ3」を意識して書いてます。
二次創作とまではいきませんが…。

因みに、時代は昭和です。

舞台は昭和45年。夏。

あの頃みんな、再び集合

とある夏。正午過ぎ。

ある喫茶店の窓際に私は二人で座っていた。

時より風が吹き、風鈴が心地よい音を奏でる。

それでも、外は晴れている。セミもあちこちで鳴いている。

さすがに暑い。

因みに、私と一緒に座っているのは女性である。今日ここにいるのはこの女性が呼びかけたからである。

「おーい！ 凄い久しぶりだね！ 元気してた！？ あ、靖之やすゆきはもう来たんだ。僕が一番かと思ってたんだけど。でも、よくみんなに連絡取ったね。さすが結衣」

そういつて私の隣に腰掛ける男性。

名前は相模さご 翔しょう。

靖之やすゆきっていうのは私の名前。

「ヤスは30分位前に来たかな？ しかしまあ、久しぶりだね！ 連絡取るの、大変だったのよ！」

そう言ったのは私の隣に座っている女性。

名前は田辺たなべ 結衣ゆい。

私のことを「ヤス」と呼ぶ。

「後の二人はまだ来ないの？」

翔が言った。

「ん〜…。もうすぐ来ると思うよ」

そう結衣が言った時。

「おっす！久しぶりだな！相変わらずだなあ。元気だったか!？」

「久しぶりだね。みんな、あの頃とかわんないね!」

男性一人と女性一人がやってきた。

男の方が新堀にいほり 武史たけし。

女の方が佐久間さくま 早智さち。

みんな、私の幼なじみである。

「お！みんな揃ったね！こんな風に集合するの、いつ以来だろうね。前は常に一緒にいたのにな」

翔が言った。

「初めてみんなに会ったのも夏だったよね」

早智が言った。

「確か…小四の夏休みだったけ？」

武史が言った。

「僕は六年だったけどね」

翔が言った。

翔だけ年が二歳離れている。

今私が26だから、翔は28だろう。
実に26年ぶりにみんなが集まった。

「じゃーん！あの頃の絵日記を持ってきました！」

そう言ったのは私。

「おー！いいね！何か懐かしい気がする」

結衣が言った。

「よく持ってたな。俺すぐに無くしちゃったよ」

苦笑いしながら武史が言った。

「これってヤスが初めてさつきに来た時の？」

結衣が私に聞いた。

「うん。翔たちに初めて会ったのがこの年だから」

「あ、そうか！」

「さつき」っていうのは結衣たちが住んでいた場所。私だけ東京育ちで、あの年の夏は父親の友達であった結衣の家に預けられた。

ちなみにさつきは田舎町。道路もあんまりないし、駅も無い。ただし、とても綺麗な自然が残っている。

私がいた東京とは正反対の場所である。

「ほら！早く！絵日記見ようぜ！」

そう言ったのは武史。

「私も見たい！」

早智も言ってきた。

「じゃあ見ますか。僕自身も何を書いたのか覚えてないんだけど……」
私が苦笑しながら言った。

「え？見てないの？」

翔が言った。

「うん。なんとなく、楽しみにしてたからさ。みんなで見ると」

そう言って私はゆっくりと絵日記を開いた。

あの頃みんな、再び集合（後書き）

どうでしたでしょうか？

これから絵日記のお話として進めていきたいと思えます。

僕の理想の夏休みが「ぼくのなつやすみ」なので、結構ね、うん。
被ってる部分がでてくるかと…。

まあ、頑張ります。

（今更平生まれですとは言えないよね…）

7/27(金)晴れ(前書き)

作中に出てくる口ごもりは適当です。

絵日記開きます。

7/27(金) 晴れ

私は、「ジャポニカ」シリーズのノートを開いた。

みんな、注目していた。

7/27(金) 晴れ

今日は夏休み初日だった。8月からずっとお父さんの友達の家で生活するので、宿題を7月中に終わらせるために頑張った。今日だけで半分終わった。

そう書かれていた。

それと、机の上に置かれた算数ドリルの絵が描かれていた。

「へえ〜。夏休み初日から宿題なんてやってらんないだろ！」

そう言ったのは武史。

「武史なんて夏休み終わってからも宿題やらなかったよね〜」

からかい気味に言ったのは結衣。

「あつたりめーよ！」

武史が胸を張って言った。

「自慢にならないでしょ！」

翔が突っ込んだ。

「でも、夏休み初日から宿題やるなんて偉いね！さすが靖之君！」
早智が言った。

「いや、当時はさつきに行くっていうんで必死だったんだと思う。
今だったらやらないよ」

笑いながら私が言った。

「というか、宿題の絵って普通描かないぜ？しかも何気に上手い……」
武史が言った。

「次行こうよ！ヤス、めくって！」

結衣がそう言ったので、私は次のページを開いた。

7/27(金)晴れ(後書き)

一話一日が基本になりそうです。

書くのに時間かからないのでいいですね。

8月31日まで夏休みなので、大体何話まで続くか予想つきますよね。

7/28(土) 晴れ

結衣に促され、私はページをめくった。

7月28日(金) 晴れ

今日は昨日できなかった宿題を全てやった。

後は自由研究と絵日記と歯磨きカレンダーだけになった。

自由研究は向こうでできるものをやらなきゃいけないので、大変だ。

「自由研究って確かに大変だよなー。なかなか思いつかなくて」

武史が言った。

「嘘っ！？武史はいつも朝顔の育ち方だったじゃん」

結衣が笑いながら言った。

「え？そうだったけ？覚えてねーや」

「適当だなあ……」

翔が呆れて言った。

「みんなは自由研究って何やったの？」

私がみんなに聞いた。

「私は確か…貯金箱を作ったよ！」

確かに結衣は綺麗な貯金箱を作っていた記憶が微かに私にはあった。

「私は…夏の星座をまとめたよ。あれは大変だったなあ」

早智が言った。

星座を調べるのは確かに大変だろう。

さつきは空気が綺麗だから、見える星も多い。

「僕はオツペ川を源流から湖に合流するところまで追ったんだ。今の僕なら考えられないよ」

苦笑しながら翔が言った。オツペ川というのはさつきの町を流れている川の名前。

ヤマメやイワナ、ニジマスなどが住むとても綺麗な川だ。アユやウグイも釣れる。

「ヤスは？何やったか覚えてないの？」

結衣が私にきいた。

「覚えてるよ。しっかりとね」

私はそう答えた。

「靖之つて虫採ってたイメージしかないな」

武史が言った。

「まあ、自由研究が昆虫採集だったからね」

私が言った。

「じゃ、次行かない！？早くさつきに来た時が見たいんだよね」

翔が言った。

「はいよ。まあ、さつきに行ったのは8月1日だから、もうちょいあるけどね」

私はそう言って、ページをめくったのだった。

7/28(土) 晴れ(後書き)

キャラのイメージがより掴める！

個人プロフィール〜！

加藤 靖之(私)

(カトウ ヤスユキ)

性別：男

身長：172センチ 体重：58キロ

趣味：アウトドア

年齢：26歳

その他：主役。東京出身の都会っ子。小学校4年生の時に「さつき」へ行き様々な体験をする。天然なところ有り。

(「ぼくなつ」の「ボク君」イメージしてます)

名字は本文中には出してません。

出るかどうか未定…。というか、みんな名前で呼んでるから名字いらないような…。

以上！靖之キャラ紹介でした！

(喫茶店なのに何も注文しないの？という質問にはお答えできません。)

7/29(日) 晴れ

私はページをめくった。

7月29日(日) 晴れ

今日は宿題も終わったので、友達の家遊びに行った。
オセロで全勝した。

「へえ、ヤスにも東京に友達いたんだ」

結衣がからかい気味に言った。

「いるよ！まあ、クラスの人数も多かったしね」

私が言った。

「靖之つてオセロ強いの？」

武史が聞いた。

「武史よりは強い自信があるよ」

「言ってくれるねえ。ま、俺は負ける気はしねーけどな！」

武史が胸を張って見せた。

大の大人がオセロの話題で盛り上がるなんて…。

幼なじみだからであろう。

「あれ？武史って、オセロ凄く弱くなかった？」

結衣が言った。

「あ、そつだよ！私、武史の色全部ひっくり返して勝ったの覚えてるよ！」

早智が言った。

「うん。確かに武史は弱かったよ！」

翔が追い討ちをかけた。

「あれ〜？そつだったっけ？覚えてねーや。最近やってないし」

本当に忘れてるのか、それともとぼけてるのか？

流石の武史も三人から言われると言い返せなかった。

「次の日に行こう！」

早智が言った。

「そつだよ。早く8月に入らないかな？」

翔はさつきに来てからの日記を楽しみにしているらしい。

私は、急かされるようにページをめくった。

7/29(日)晴れ(後書き)

キャラクター裏設定コーナー

名前：田辺 結衣

フリガナ：タナベ ユイ

性別：女性

血液型：A型

趣味：水泳

身長：160センチ

体重：秘密。体型は普通。

その他：さつきで生まれ育った靖之の幼なじみ。お父さん同士が高校が同じだったことから仲が良い。

幼いころ、靖之と会ったことがある。

子供の頃はいつも翔、武史、早智と遊んでいた。

しっかり者で、ちょっと気が強いところがある。

(一応、「ぼくなつ3」の緑ちゃんイメージしてます)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9535t/>

あの頃の夏休み

2011年8月8日11時13分発行